

事業のタネシート

活動地域・団体名：鶴岡市三瀬地区自治会

事業名称 1：自然エネルギー活用地域協議会（仮）

あらすじ

地域団体がそれぞれ持つ自然の活用のノウハウを共有することで地域内に経済や人的資源の循環を起こすとともに、都市部からの資本の流入に対し、地域が本当に良い方向に向く事業なのかを判断する知見も共有ため、協議会をつくる。

ストーリー

荒廃した山林を適正に管理し、これに伴い搬出される木材を地域のエネルギーとして活用する「エネルギーの地産地消」を目指す。森林が健全になれば土砂崩れなどのリスクが減り、地域住民の自然体験の場としても活用できる。高齢者福祉施設や教育・保育施設、その他地域内の公共施設で薪ボイラーの利用を広げ、同時に一般家庭での薪ストーブの利用が広まれば、地域内における木材活用の機会が増え、地域経済の循環を生み出すことができる。取組の裾野を広げながら担い手を育成するために、森林への興味誘導や自然エネルギーとしての活用の理解促進を目的に啓蒙活動を行い、森に親しむ催しや木質チップを活用した地域の避難道整備に取り組む。森林を利用することで地域の経済が循環し、雇用が生まれ、木による癒しや健康促進などの恩恵も受けながら自然環境を守ることもつながっていく。このことにより、地域住民や林業者、施設職員や施設管理者である自治体等、ステークホルダーの共通認識として地域が元気になる取組みであることの理解が生まれ、多様な主体が協議会に参画し、地域全体の取組へと発展することを目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	エネルギーの自給自足による持続可能な地域	対象となる施設や施設管理者である自治体等、地域内における関係者の理解促進 利用出口の確保
② 課題	・森林資源をエネルギーとして使用する場所「出口」 ・担い手	
③ なぜこの事業をやるのか（Why）	・地域経済を活性化させ新たな雇用やコミュニティを創出することで、地域に活力を生み出す。 ・森林資源があるから	
④ 地域資源	森林 (できれば森林以外の自然エネルギーも考えたい)	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容（What）	様々な手法で地域の山から木材を出し、A～CD材まで適切に使用。 エネルギーとして使用するCD材は薪、チップ、ペレットなど。	
⑥ 担い手（Who）	・域内林業者 ・自治組織などの地域団体 ・自然体験を実施する主体 ・木質バイオマスを導入する施設および施設管理者である自治体、個人	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	・地域内経済循環、山に入る人の循環 ・地域外へのエネルギー提供による経済循環、自然エネルギーの活用を目指す移住者の獲得による人の循環	・事業内容を適切に伝える技術がある人物（プレゼン、ファシリ） ・林業者とのつながり ・森林資源活用のハード整備する人（企業）
⑧ 事業で生じる成果	三瀬地区内1.1億円の化石燃料料金の流出防止 鶴岡市内186億円の化石燃料料金の流出防止	

事業名称 2 : 自然体験事業者プラットフォーム (仮)

あらすじ

派手な観光地ではなく地域の生活・文化そのものを「体験」で交流人口関係人口を拡大し、リピーターとして地域にかかわってもらうことを目的により効率的に大規模なものまで対応できるプラットフォームをつくる。

ストーリー

ユネスコ「食文化創造都市」に登録される食文化や山林を活用する文化、薪ストーブや灰汁を使った文化など多くの自然体験を市街地や都市部の人々を対象に実施。農業体験や漁業体験、能や歌舞伎などの伝統芸能も併せてプログラム化することで希望する組み合わせや学習に沿った組み合わせで実施可能。すでに活動するNPO法人あつみ自然体験コーディネットや一般社団法人庄内体験活動協議会を中心にプログラムは当地域内だけではなく鶴岡市内郊外地各所と連携し実施する。修学旅行等の教育プログラムやインバウンドに対応できるよう資格を持ったスタッフを地域内外から人材発掘する。地域連携することで単体地域よりも学校単位等の大規模な受け入れも可能となるとともに、プログラム価値・価格の定量化、受け入れノウハウ技術の平準化、外部への営業活動の実施など規模拡大を目指す。外部からの交流人口流入により食文化、自然文化等の価値を地域の人々が改めて再認識し、新たな視点で持続可能なビジネスを見出す。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域の自然・文化を生かし継承しながら持続的に住み続けられる地域	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの利害関係の調整 プラットフォームのとりまとめの組織、事務局をどこがやる？その担い手確保。 運転資金
②課題	自然体験事業の担い手の活動が内容や価格、クオリティー、集客方法等様々な対応がバラバラ。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	行政も含め、地域資源を生かした体験事業をある程度まとめることでより多くの交流人口、関係人口を確保する。	
④地域資源	海山川里とそれに関わる様々な文化	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	海山川里とそれに関わる様々な文化の体験	
⑥担い手 (Who)	自然体験事業実施者、行政 (県、市)	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> 都市部からくる人の循環 地域内で改めて文化を見直すための循環 	<ul style="list-style-type: none"> 事業運転資金を出してくれる人 事務処理ができる人
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口、関係人口、移住の増加による地域の持続。 地域外からの資金の流入、地域の人気が気付かない価値を再認識することで生まれる新たなビジネスの可能性。 	